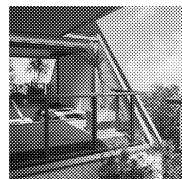
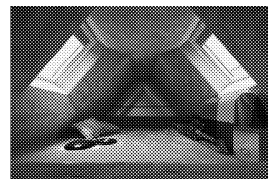
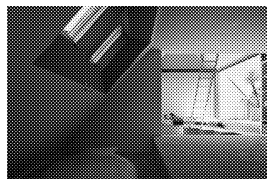


NEXT HEBEL HAUS



CUT & GABLE

塊から削り出す [=CUT] デザインで
モダンな箱形に家形 [=GABLE] を重ね合わせ、
新しい外観と変化に富んだ空間をつくり出す。
外壁ヘーベルの量塊感・素材感を活かした都市の邸宅、
カットアンドゲブル誕生。



旭化成ホームズ株式会社

〒160-8345 東京都新宿区西新宿1-24-1 エステック情報ビル TEL 03-3344-7115

<http://www.asahi-kasei.co.jp/hebel/>

具体的な方法

温熱環境づくりに
最も大切な必要条件

【冬のポイント】
①太陽の熱エネルギーを集めるために、影の調査を怠らないこと(図1)敷地の南側が建物で囲まれている時こそ、入念に影の調査をすると配置計画の方向性が見える。図の敷地では影のない場所に光庭を位置つけた。
②断熱や気密だけでなく、「Q値」の意味を知ると納得の性能に紙面の都合上、詳述はできないが、今や断熱性能だけでは偏っている。トータルバランスを計るQ値の質を上げることが望まれる。当社のホームページ「性能1・Q値」を参照されたい。
③窓ガラスは要注意明るさや室内の印象を良くするガラスは、寒さ

の元凶。ペアガラスでも全く安心できない。ガラスの表面温度の冷たさを室内に響かせないカーテンを工夫したり、冷たい下降気流が生じている場合は、その下部にヒーターなどを備えるとよい。
④温度差の生じにくい暖房方式の考え方部屋の温度ではなく、床・壁・天井の表面温度が均一になり、居室と非居室とに温度差が生じない手法を採用したい。当社で実績を重ねている「どまだんシステム」の手法も参考にされたい。蓄熱輻射冷暖房のセオリー

が理解できる。
【夏のポイント】
⑤ひさしをしつかりと(写真2||前ページ参照)屋根の軒の出をいたずらに張り出しても日射には効かない。窓とひさしとを近づけて大胆に張り出すと良い。
⑥建物に当たる面ごとのエネルギーも知っておくとよい(図2)意外にも夏場の南面よりも東西面の日射制御が

効果的。夏場の東面を外付けルーバーで覆うと、なんと「エアコンを1回しか使わなかった」との報告も入った(写真3||前ページ参照)。
自然の呼びかけに応えるそれがパッシブ

温熱環境デザインが建物の個性を創る

例えば夏場、顕著にその地域に吹く風を調べ、それを上手に部屋に導き入れたら、その風を利用して空気を排出したりする(図3)のもパッシブな在り方だ。
この図が示すのは通風だけでなく、家の中には光が差し込むと温度が上昇し、また人が暮らせば室内温度が上昇する。温度が上がれば暖かな空気は上に上がる。上手に高い場所に導けば、そこからどんどん熱気は排出される。外部が無風でも、室内の暑い空気が排出されれば、窓からどんどん外気を吸い込むので、室内に新たな気流が生じてクールダウンする。これ

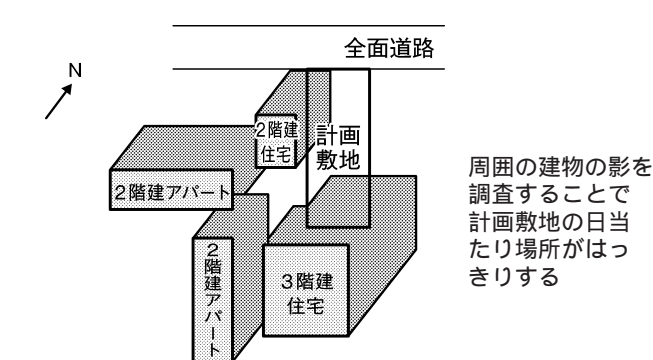


図1 冬場正午の周囲の影

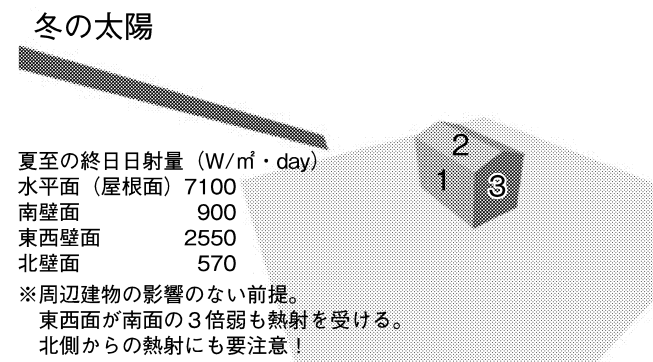


図2 建物に当たる面ごとのエネルギー

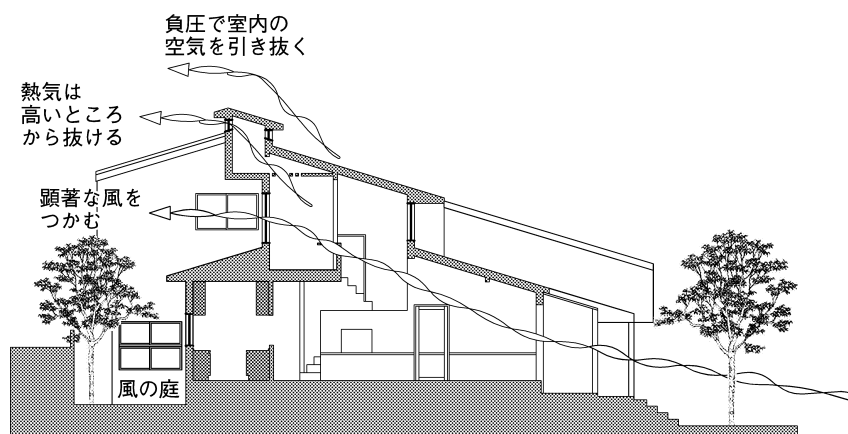


図3 通風と熱気の排出

も自然の原理を用いたパッシブだ。
温熱環境に焦点を合わせ、自然の力を生かしながら、これからの住宅を個性豊かに創っていく手だてとしていただきたい。
住宅特集